

病気の子どもたちの支えに



キワニスドールを寄贈した神戸キワニスクラブの
濱崎加代子福祉広報委員長（左）＝神戸市西区

神戸キワニスクラブ、人形30個寄贈

社会奉仕団体「神戸キワニスクラブ」（神戸市中央区）は、病気の子どもたちの診療・治療のための人形「キワニスドール」30個を西神戸医療センター（同市西区）に贈った。同センター側からは感謝状が渡された。

キワニスドールは身長約40センチ、体重約500グラムで、無地の白い木綿生地によりエステール綿を詰めてつくられる。同クラブ会員の手作りで、医師らによる病気や手術などの説明に用いられる。また、子供らがキワニスドールに顔を描いたり、話しかけたりすることで、入院の不安を和らげる効果も期待される。

同クラブの会員らが17日に同センターを訪れ、キワニスドールを寄贈。松原康策小児科部長は「子供にとって入院はとても大きなイベントで、不安の塊みになる。キワニスドールで、体の中のことや病気の理由が分かったり、子供が少しリラックスしたりする。子供にとって本当に役立っていて、非常にありがたいと思う」と謝意を示し、同クラブの濱崎加代子福祉広報委員長も「励みになる。もっともっと作りたい」と応じた。

同クラブは15年以上にわたり、県内の医療機関を中心にキワニスドール計2千個以上を寄贈。同センターへは平成18年以来、2度目の寄贈となった。今年11月下旬に同センター側から要望があり、今回の寄贈が実現した。